

第4回 葵が丘小学校運営協議会

日時 令和7年2月18日(火)

15:00~16:30

会場 葵が丘小学校 多目的室

〈次第〉

開会 開催要件(委員の過半数の出席)確認 (司会:教頭)

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長選出

4 前回会議録確認

5 熟議 (議長:見野)

(1) 学校関係者評価について

- ・児童、保護者、職員等の学校評価結果を受けて(教務)
- ・次年度運営の基本方針について(校長)
- ・いじめ防止等のための基本方針について(校長)

(2) 学校運営協議会の自己評価(会長)

(3) 夢育やらまいかCS加算分の報告(教頭)

6 報告 (司会:教頭)

あおいっ子スマイルサポーターの活動報告(学校支援コーディネーター)

7 連絡 (司会:教頭)

(1) 次年度の準備について

- ・令和7年度学校運営協議会 年間開催計画

第1回 令和7年4月24日(木) 14:30~16:30

(2) 学校運営協議会委員交代について

(3) 会長・副会長の確認

(4) 次回の議長の選出及び熟議内容の確認

閉会

第4回 学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

会長	小栗 則利
副会長	桐村 哲雄
委員 学校支援コーディネーター	見野 泰弘
委員	若松 由希野
委員	田村 都弥
委員	伊藤 謙吾

学校支援コーディネーター

西原 真知

オブザーバー

北部協働センター	鈴木 克隆
----------	-------

学校

校長	島田 一孝
教頭	佐藤 明世
C S 担当教職員	芹澤 純子
C S ディレクター	村上 朝香

令和6年度 第3回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年11月21日（木） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
- 3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、若松 由希野、田村 都弥
- 4 欠席委員 伊藤 謙吾
- 5 報連相コーディネーター 西原 真知
- 6 学 校 島田 一孝（校長）、佐藤 明世（教頭）、芹澤 純子（CS担当職員）
村上 朝香（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 穴戸 英里香（教員）
- 9 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香

10 議長を選出

小栗会長より、前回の会議上で年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認した為、予定通り見野委員が務めることになった。

11 協議事項

- (1) 学校の抱える課題と改善策について
- (2) 支援策の具体化について

12 会議記録

司会の佐藤教頭から、委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 熟議

(1) 学校の抱える課題と改善策について

議長の指示により、校長から学校の抱える課題と改善策についての説明があり、そのあと教務主任より別紙資料に基づき、学校中間評価及び全国学力・学習状況調査について説明があった。これらについて委員から以下の発言があった。

● 地域に関する項目について

- ・ 【地域の行事に進んで参加している】についての結果だが、アンケートの調査時期が1学期ということも影響しているように思う。地域行事は夏から秋にかけて行われる。また【地域のためになることをしている】については、自分自身も反省すべき項目である。私たち地域の代表が、子供たちのために何ができるのか、もっと話し合うべきだと感じた。（桐村副会長）

→ 2学期にもアンケートを実施する予定である。その際には、より良い結果をお知らせできたらと思う。（教務主任）

- ・ 子供の参加率が減少しているのも確か。地域の行事にあまり興味を示さなくなったと感じる。毎年恒例だった夏祭りのポスター作成も、週末集まらないという理由で、今年は各自で描いて提出することになった。週末、子供たちは何をして過ごしているのか。（小栗会長）

→ 週末は習い事をしているため、行事に参加が困難である。（若松委員）

→ 保護者同士のつながりも希薄になっていることも影響しているのではないか。

(見野委員)

・ 地域の行事の案内は学校で配布は可能なのか。(見野委員)

→ 掲示板に掲載、チラシの配布等は可能である。(佐藤教頭)

・ 学校から地域の行事のアナウンスをすれば、子供たちは参加するものなのか。

(小栗会長)

→ 実際に実施している学校がある。行事の参加率は高い。地域と学校が連携して地域行事に積極的に参加するよう取組んでいる。(島田校長)

→ 回覧板のみの案内だと子供は見ない。やはり改善が必要に感じる。(桐村副会長)

● 学力について

・ 学力調査の結果だが、全国平均より僅かマイナス1ポイント。気にする必要があるのか。やはり平均を上回る学力を身に付けさせるべきなのか。(見野委員)

→ 基礎・基本が身に付かず卒業してしまう子もいる。そのような子供たちにも学ぶ楽しさを感じてもらいたい。(島田校長)

・ 基礎・基本の定着度について、先生の回答が【あまりできていない】と【わからない】が多いのはなぜか。(伊藤委員が欠席のため、代理で見野委員が発言)

→ 現在の学年で学んでいる基本的な内容は理解できていても、前の学年の積み重ねの部分の定着ができていないと感じるため。(穴戸先生)

→ フリーの教員や職種によっては、現状が正確に回答できない立場の教員がおり、無回答を選択しているため。(教務主任)

(2) 支援策の具体化について

上記の熟議をふまえ、支援策の具体化について委員より以下の発言があった。

● 学力について

・ 平均正答率だけでなく、個人の学力分布図のようなものはあるのか。それを活用することで、傾向と対策が新たに見えてくるのではないか。幼稚園では、小学校で始まる『学習』に向けて、園児がわくわく・どきどきするようなもの・興味が沸くものを園での生活に取り入れている。小学校(特に低学年)においても、授業でわくわく・どきどきする要素があるとよいと思う。(田村委員)

→ 個人データはある。保護者とも共有できるようになっている。(教務主任)

・ 各教科別の個人授業はあるのか。過去、葵が丘小では少人数制の授業があった。

(小栗会長)

→ 現在も保護者の了承のもと実施はしているが、希望者も多く十分な時間の確保は困難である。(教務主任)

→ 各教室に支援員が配置され、フォローをしている。(島田校長)

・ 子供たちに学習習慣・生活習慣を身に付けさせるために、地域と保護者はどのような取り組みが可能か。また子供たちの学力向上に向けて、地域と保護者と連携しながら何ができるか。(佐藤教頭)

→ 現在の小学生の学習内容は、親が教えられるものなのか。(小栗会長)

→ レベルが上がっているのは確か。(桐村副会長)

- 中学年までは親の確認印が必要だったため学習内容を把握できていたが、高学年になると確認印が不要になり、現在は把握できていない。我が子がどのレベルにいるのか、親も子の理解できていないのが現状である。(若松委員)
- ・ 学力向上のために読書は大切なのではないか。文章力を身に着けさせるためにも、積極的に読書の時間を増やしたほうが良いのではないか。(見野委員)

● 家庭学習について

- ・ 宿題は多いのか。どのような内容なのか。(小栗会長)
 - 低・中・高で学習要綱が分かれている。学年ごとに目安の時間を決めている。高学年になった時、自ら課題を決めて積極的に学習に臨めるようになることを目指している。学習内容は、興味のあるものや苦手なもの等、自ら判断して取り組む。(央戸先生)
 - 家庭学習の在り方が変化してきている。与えられたものではなく、主体性を持ち自分で考えて取り組むことを目指している。(佐藤教頭)
 - 自主的に取り組むことができない子供との二極化が懸念されるのではないか。(小栗会長)
- ・ 学習のレベルで判断するのではなく、学習の習慣を身に着ける教育法はできないのか。(田村委員)
- ・ 高学年の自主学習のカリキュラムは、全国的なものなのか。それとも浜松市独自のものなのか。これが学力調査の結果に影響しているのではないか。全員が同じ内容で学習する方が、個人差が付きにくいのではないか。主体性を持って取り組む学習法も大切ではあるが、それができない子供にとっては、基礎の反復学習をするほうが良いのではないか。(西原コーディネーター)
 - 各学校で多少の違いはあるが、傾向としては現在のやり方に移行していく。急に手放しにするのではなく、低・中・高で段階を踏み、行う。『ここが苦手だから頑張っ取り組もう』という意識が付けば、限られた時間の中で、それに向けて集中して学習に臨める。今の自分にとって何が必要か、自分で考える、自分を知るということを大切にしたい。(佐藤教頭)
 - そのような内容の話を保護者向けにしてもらいたい。実際、今の家庭学習の内容に疑問を抱いている保護者もいる。家庭学習の在り方・学校のねらい・先生方の思いをまずは保護者に周知し、理解してもらうことが大事なのではないか。(西原コーディネーター)

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

◇ その他報告事項等

- ・ 学校支援コーディネーターから、2学期の活動報告があった。

◇ その他連絡事項等

- ・ 司会から、次回会議は令和7年2月18日(火)15時から多目的教室で開催する旨の報告があった。

学校運営協議会 年間計画

令和6年4月1日～令和7年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等	備考
1	令和6年 4月25日 木曜日 14:30～16:30 多目的室	熟議テーマ (1)学校運営の基本方針について 説明 ⇒ 熟議 ⇒ 承認 (2)いじめ防止基本方針について	
2	令和6年 6月20日 木曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ <input checked="" type="checkbox"/> 特色ある学校づくり <input type="checkbox"/> キャリア教育の実践について <input type="checkbox"/> 学校評価アンケートの項目の検討 <input type="checkbox"/> 学校の抱える課題と改善策 <input checked="" type="checkbox"/> 支援策の具体化	
3	令和6年 11月21日 木曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ <input type="checkbox"/> 特色ある学校づくり <input type="checkbox"/> キャリア教育の実践について <input type="checkbox"/> 学校評価アンケートの項目の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の抱える課題と改善策 <input checked="" type="checkbox"/> 支援策の具体化	学校運営協議会の自己評価表 委員の意見収集 ⇒学校への提出締め切り日 12月6日(金) 【配布物一覧】 ・前回の会議録 ・令和6年度学校中間評価資料 ・自己評価関係書類 ・学校運営協議会年間計画 ・第4回学校運営協議会案内
4	令和7年 2月18日 火曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ (1)学校関係者評価 学校の自己評価説明⇒改善策について熟議⇒次年度へ (2)次年度学校運営の基本方針について 説明 OR 承認 (3)学校運営協議会の自己評価	【配布物一覧】 ・前回の会議録 ・令和6年度学校評価(案) ・令和6年度自己評価表(案) ・令和7年度学校運営協議会 年間計画(案)

令和6年度 葵が丘小学校 学校評価

案

I 令和6年度の取組

質の高い学習・生活の実現【主体的・対話的で深い学びの実現 一人一人が活躍できる場の保障】	学習・生活の基盤整備【実践的指導力の向上 学校と地域、家庭の一体的推進、地域における子供の活躍】
【知】確かな学力を育む：確かな学力プラン ○考える楽しさ、分かるうれしさを味わわせる授業づくり ・各教科等で着目・重視（研究授業の実施） ・主体的な学び（対話的な学び） ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識し、子供たちの学び意欲を引き出す単元構想、課題解決的な授業構想等を立案し、効果的に「ICTの活用」を図りながら学習過程の改善に努めた。 ○地域に関わった学びの推進として、「学びの推進」として、地域の教育力を生かした教育活動を推進した。（外部人材との連携） ○家庭学習の充実 ・子供たちが自ら「学びたい」と感じる学習を主体的に行うことができるよう「ICTを活用した家庭学習を積極的に」行った。	【体】健康・安全を育む：健康・安全育成プラン ○授業や体育の活動の充実 ・体育科の授業では、チームや個人の課題を明確にさせ、課題解決に向けて対話する場面を設け、主体的に活動に取り組んだ。 ・持久走・体力テスト・部活動では、体力の実態を踏まえ、個々に目標を設定し、その達成を目指す活動を行った。 ○体を動かすことの習慣化を図る取組 ・運動週間（投力、持久力向上等）を設定し、仲間と協働することを通して、運動する楽しさや達成感を味わわせた。（各種スポーツイベント） ・外遊びを奨励し、日常生活における体力づくりの意識化を図った。（特久走、的あて、縄跳び等）

II 自己評価 ○ 児童の評価

児童が主体的に学習に取り組んでいる	85.0%
授業の内容が理解できる	68.1%
自分なりに進んで考えたり工夫したりして、学習に取り組んでいる	87.6%
自分や周りの人を大切にしている	81.5%
だれとでも明るく心もった挨拶をしている	88.6%
人への思いやり・助け合い・ゆずり合いの気持ち大切にしている	86.1%
強い心を持ち、どんなことにも全力で取り組んでいる	85.2%
授業の内容が理解できる	81.9%
自分なりに進んで考えたり工夫したりして、学習に取り組んでいる	87.4%
タブレットを使った学習は、自分の役に立っている	84.8%
学校を楽しいと感じている	75.1%
よりよい学級や学校をつくらうと行動している	85.6%
運動することが楽しいと感じたり、目標をもって運動したりしている	85.0%
健康や安全に気を付けて生活している	92.5%
先生は、勉強がよくわかるように教えてくれる	92.1%
先生は、いじめがなく、みんなが仲良く過ごせるようにしてくれている	83.0%
先生は、困ったことがあったときに相談しやすい	93.3%
学校は、安全や健康に過ごすために大事なことを教えてくれる	

○ 職員の評価・分析考察

授業構想を工夫したりICTを活用したりしながら、授業改善を行ってきた。しかし今後も児童一人一人が、粘り強く学習に取り組むながら、さらに基礎基本的な学力の定着を目指す必要性を感じている教員が多い。また、粘り強い学習設定をしながら、児童が授業や家庭学習で主体的な学びが展開できるように工夫していかなくてはならない。ICTの積極的な活用や外部人材との連携により、授業がより深まり多岐にわたる学習につながった。今後、学年ごと年間を見通した継続的な活用（モラル指導を含む）や連携を計画的に進める必要がある。学校説明会や学校、学年だより、教育相談等でも児童の様子を伝えながら家庭との連携をさらに図っていき、今後も教育講演や懇談会の参加率は低く、「共に協力し合い子供たちを育てる」風土の醸成をさらに図っていき、学校として縦のつながりも意識した体験的活動ができた。今後とも目的や6か年のつながりを意識した実践の積み上げを図りたい。委員会としての活躍は、ピアタイムを含めたことによりより人間関係構築のための重要な活動になった。特に高学年がリーダーとして活躍し、自己有用感を高める機会になった。体力アップを目的としたイベントや期間を設けたが体力の低下は続いている。今後も児童の健康や体力づくりに対する意識の向上を図る必要がある。

IV 今後の改善方策

- ◇ 学年団研修の実践や外部講師招き等、研修の一層充実させる。魅力のある課題設定、授業改善に向けて、研修に取り組み、また、学校支援CDと連携し、専門的かつ体験的な学習の場を計画的に設定する。
- ◇ 温かい関わり合いができるよう、特別活動の充実（学級活動、縦割り活動、委員会活動）を図っていく。今後も継続してしめ予防教育の理解と実践を行う。アンケートでの調査を引き続き実施しながら、児童との対話を大事にしていく。
- ◇ 情報活用能力の育成を目指す。ICTを有効活用した授業の推進を図る。授業での活用だけでなく、家庭にも持ち帰り、家庭学習でも利用できるような機会を作る。
- ◇ 体育科の学習、持久走を目標とし、外遊び等の体力アップの時間を確保し、粘り強く挑戦する態度を育てる。目標に向かって粘り強く挑戦する態度を育てる。場を工夫し設定する。（「葵チャレンジ」有効活用）

○ 保護者の評価

お子さんは、ルールやマナーを守り、よいこと・悪いことを判断して行動している	92.3%
お子さんは、地域の行事に喜んで参加したり、地域のために何かをしようとしていたりしている	41.8%
お子さんは、自分や周りの人を大切にしている	93.7%
お子さんは、だれとでも明るく心もった挨拶をしている	71.7%
お子さんは、人への思いやり・助け合い・ゆずり合いの気持ちを大切にしている	89.4%
お子さんは、強い心を持ち、どんなことにも全力で取り組んでいる	70.6%
お子さんは、基礎的・基本的な学習内容が定着している	73.5%
お子さんは、主体的に学習に取り組んでいる	64.4%
タブレットを使った学習は、お子さんの学習の充実につながっている	78.4%
お子さんは、学校が楽しいと感じている	89.9%
お子さんは、行事に楽しく参加したり進んで委員会や係活動をしたりして、生き生きと生活している	90.9%
お子さんは、体力作りに努めている	66.3%
お子さんは、健康や安全に気を付けて生活を送ろうとしている	84.2%
学校は、お子さんを理解し、個に応じた支援をしている	85.1%
学校は、いじめのない学校・学級・集団づくりに取り組んでいる	80.3%
学校と家庭は、教育相談等により、相談しやすい関係となっている	92.3%
学校は、安全確保や健康管理のための取り組みを行っている	92.7%
学校は、たよりやホームページ等により、必要な情報を発信している	93.3%

III 学校運営協議会による学校関係者評価

学校関係者	92.3%
保護者	93.7%
児童	71.7%
児童	89.4%
児童	70.6%
児童	73.5%
児童	64.4%
児童	78.4%
児童	89.9%
児童	90.9%
児童	66.3%
児童	84.2%
児童	85.1%
児童	80.3%
児童	92.3%
児童	92.7%
児童	93.3%

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表(案)

浜松市立(葵が丘小)学校運営協議会長

<本年度の目標>

- 『子供の主体性の育成』に向けたその導き方なども踏まえ、委員間で活発な意見交換を交わし、より充実した熟議が行う。
- 2年間を通して確立された組織を生かしながら、保護者にもっと周知してもらえるように、情報発信の強化を図る。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 校長より学校運営の基本方針についての説明を受け、理解に努めた。議長を中心に、委員全員が、さまざまな観点から意見を出し合い、大変充実した熟議を行うことができた。
- 3年目ということもあり、委員一人一人のモチベーションが向上し、活発な意見交換がなされ、価値のある熟議ができたように思う。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 基本方針に対して共通理解が持っており、何が必要なのか、委員全員が理解しているので、学校支援コーディネーターを中心に、保護者・地域を巻き込み活動することができた。会議の中でも、この点について十分な熟議ができたと思う。
- 学校・地域・学校支援コーディネーターの視点から様々な意見を聞き、熟議・熟考することができた。学習活動の中で、子供たち一人一人が主体性を持ち、しっかりとした考えや意見を発表する姿が多く見られ、着実に成長していると感じた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- 昨年度に比べ、さくら連絡網での情報発信が増えたように思う。一歩的な発信に留まるのではなく質問できる場などがあれば、さらに理解を深めることができると感じる。今後その手段についても協議していきたい。
- 学校から保護者に対しては、さくら連絡網で発信が確立しているため、保護者の理解は深まっているように思う。しかしながら、年々地域行事への参加者が減少していることから、地域への発信については不十分だったと感じる。地域からの情報発信のあり方についても検討すべきである。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- 一期三年間で強固な協議会組織が確立したと思う。「主体性の育成」という目標には終わりがなく、今後も継続して取り組むべきだと考える。二期に向けて、協議会メンバーを中心に、学校・保護者・地域が一丸となり、学校の抱える課題に取り組んでいきたい。
- 順調に運営ができていると思う。評価を踏まえた更なる発展のためにも、保護者と地域への周知を広げていくことが大切だと考える。様々な年齢層の交流等、人との関わりによる体験・経験を通して、子供たちの社会に対する視野の拡大につながるよう、より充実した熟議となるよう努めていきたい。

学校運営協議会 年間計画(案)

令和7年4月1日～令和8年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等	備考
1	令和7年 4月24日 木曜日 14:30～16:30 多目的室	熟議テーマ(案) (1)学校運営の基本方針について 説明 ⇒ 熟議 ⇒ 承認 (2)いじめ防止基本方針について	
2	令和7年 6月19日 木曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ(案) <input checked="" type="checkbox"/> 特色ある学校づくり <input type="checkbox"/> キャリア教育の実践について <input type="checkbox"/> 学校評価アンケートの項目の検討 <input type="checkbox"/> 学校の抱える課題と改善策 <input checked="" type="checkbox"/> 支援策の具体化	
3	令和7年 11月20日 木曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ(案) <input type="checkbox"/> 特色ある学校づくり <input type="checkbox"/> キャリア教育の実践について <input type="checkbox"/> 学校評価アンケートの項目の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の抱える課題と改善策 <input checked="" type="checkbox"/> 支援策の具体化	学校運営協議会の自己評価表 委員の意見収集 ⇒学校への提出締め切り日 12月5日(金)
4	令和8年 2月10日 火曜日 15:00～16:30 多目的室	熟議テーマ(案) (1)学校関係者評価 学校の自己評価説明⇒改善策について熟議⇒次年度へ (2)次年度学校運営の基本方針について 説明 OR 承認 (3)学校運営協議会の自己評価	